

空から降ってくるもの

皆さんは、“空から降ってくるもの”と言えど何を思い浮かべますか？雪や雨、雷、隕石など様々ありますが、本の世界では現実ではありえないものが空から降ってきます。そこで今回は、空から色々な物が降ってくる本をご紹介します。

1冊目は、岩田明子/作『そらからふるものなんだっけ？』です。

今日は、かみなりちゃんが一人でお留守番の日です。そこでかみなりちゃんは、お父さんの真似をして空の上から雨を降らせようとします。でも、初めてで何を降らせたらいいかわからなくなってしまったかみなりちゃんは、その場で思いついた物を降らせることにします。最初に思いついたのは“まめ”。呪文を唱えながら、太鼓をたたくとえんどう豆や小豆などの様々な豆を降らせてしまい、町は大騒ぎに…。その様子を見たかみなりちゃんは、いつもと違うことに気づきますが何を降らせばいいか思い出せません。かみなりちゃんは、無事に雨を降らせることができるのでしょうか。

2冊目は、矢玉四郎/著『はれときどきぶた』です。

主人公の畑山則安くんは、平凡な小学三年生です。則安くんの唯一の自慢は、二年生からずっと日記を書いていること。そんなある日、お母さんが自分の日記を見ている事に気づき、お母さんを問い詰めます。しかしお母さんは、一切悪びれずに日記を盗み見たことも謝ってくれません。怒った則安くんは自分なりに考えて、お母さんを驚かせるために、まだ起こっていない“あした”の日記を書くことに。“あしたの日記”には、現実にはおこりそうにない出来事を書いていきます。しかし翌日、目を覚ましてみると日記に書いたことが現実になってしまい…。

著者がこの作品で子どもたちにもっとも伝えたい事が書かれてるので、ぜひあとがきまで読んでみてください。40年以上前に書かれた作品ですが、今の子どもたちにも読んでほしい1冊です。

3冊目は、デイヴィッド・ウィーズナー/作、江國香織/訳『1999年6月29日』です。

アメリカの若き科学者ホリー・エヴァンズは、「宇宙における野菜の発育について」の実験を行います。実験方法は、野菜の苗木を空にうちあげて、数週間後地球に戻ってくるはずの苗木を観察し、発育状況を調査するというもの。そして1999年6月29日、巨大に育った様々な野菜が国中のいたるところで見つかるようになります。ホリーの実験は、一見成功したかのように思えましたが…。

この本は1993年に出版された絵本で、奇想天外なストーリー展開も魅力の一つですが、なんといっても絵がとてもリアルで美しいことです。特に、町の空に巨大な野菜が浮かんでいるシーンは圧巻です。

図書館には今回ご紹介した本以外にも、ちょっと変わった楽しい絵本がたくさんあります。ぜひ、図書館にお越しください。